

学 内 往 来

「上智大学社会福祉研究」第45号をお届けいたします。

2020年、社会福祉学科には香取照幸教授、丸山桂教授のお二人が着任されました。また、藤井賢一郎准教授が、2020年3月に退職されることとなりました。本年から始まった新たな学内の出来事として、一般入試の方法が変わり、学科の独自問題が導入されたがありました。

2020年は異例の年でした。新型コロナウイルス感染症（covid-19）が世界的な広がりを見せる中、人と人が会うこと、集まることが大きく制限されました。本学は、学内入構が制限され、講義をはじめとした教育は、WEBによるものを中心となりました。四月の入学式、そして、学部の新入生を対象としたオリエンテーション・キャンプは中止となりました。当初は学生・教員とも戸惑いがあったように思います。しかし、WEBの環境に慣れるにつれ、物理的に遠く隔たった場所にいる人々と容易につながることができるWEBの可能性を見るようになりました。一方で、これまでの、日常的に行われてきた五感を動員して相手と理解し合うことがいかに有り難いかということを改めて認識いたしました。そして、肉声が、いかに柔らかく温かみのあるものか、ということについても実感しました。

本年の社会福祉学科の卒業生は60名、大学院博士前期課程修了者は5名です。この異例であった学生生活最後の年が、他者とともにあることを考えるときに貴重な経験として心に残ることを願っています。

編集責任 高山 恵理子